

熊本城調査研究センター所長

網田 龍生氏

35年計画で復旧めざす

〈大震災〉 日本三名城に数えられる熊本城は、大な城域に特別史跡の石垣や多くの重要文化財建造物が残る、日本を代表する城跡である。16年4月14日、熊本地震(前震)が発生。28時間後に更に大きな揺れ(本震)が襲い、熊本城は甚大な被害を受けた。現存する石垣は973面・約7万9千平方メートルだが、当初、完全復旧まで20年間

熊本城

2016年4月に発生した熊本地震から8年。布田川・日奈久断層帯の活動が誘発した未曾有の大地震は、ある日突然熊本、大分の両県を襲った。まさに想定外の出来事だった。日本三名城として知られる熊本城も甚大な被害を受けた。天守閣をはじめとした重要文化財建造物は全て被災し、石垣や屋根瓦も崩落した。熊本県民のシンボルである熊本城――。完全復旧まで30年余りの年月が必要とされる熊本城の現状と復旧への道のりを紹介する。

永続的継承へ全力

〈復興城主制度〉 熊本は1997年度に熊本城の復元整備計画を策定し、一口城主という寄付制度を始めた。一口1万円以上で城主になれるという事で、多くの方々の賛同を得て、復元整備事業に役立てていたが、熊本地震の発生で復元整備事業とともに一口城主も中断した。その後、地震後の生活再建を優先する気持ちで市民だけでなく全国から寄付制度の復活を求める声が大きくなり、「復興城主」のご提案を頂き、熊本地震から半年後、復興城主による寄付を始めた。連日、受付窓口は長蛇の列となり、事務処理がパンクするようないきなり、復興城主による盛況に驚くことも感謝の気持ちでいっぱいになった。ふるさと納税の返礼品にも加わり、現在も多くの寄付が続いている。



改修が進む熊本城

〈耐震補強〉 地震前は、石垣上や堀以外のほと



10年をかけて見学通路の撤去と周辺区域の石垣復旧、新たな整備計画の検討を予定している。

〈天守閣〉 熊本城の天守は西南戦争直前に焼失し、1960年に鉄筋鉄骨コンクリート造りで再建されたが、地震によって建物・石垣ともに部分的に損傷を支える形となり、マスコミから「奇跡の一本石垣」と呼ばれて注目された。建物・石垣の倒壊防止工事などを行なった後、建物解体し23年度に石垣の積み直しまで完了した。今後、建物の組み立てを進めていく。

また、重要文化財建造物の部材回収・保護も被災直後から優先的に行なった。石垣の被災が軽微であったものから復旧工事が進み、長堀・監物櫓の順に完了し

た。現在、宇土櫓五階櫓の解体を進めており、石垣の解体・積み直しを経て、32年度に復旧完了を目指す。24年度は平櫓石垣の積み直し、北東櫓群の石垣解体、南東櫓群の建物解体などを予定。石垣、建物ともに耐震性の向上に努めるが、文化財価値を損ねないために補強の手法は状況に応じて



解体工が進む宇土櫓五階櫓

震診断・補強の検討が重要である。

〈公開活用〉 復旧過程の公開活用は、復旧事業の主要方針の一つである。復旧事業の工事や調査の過程では、通常では見ることができない光景が随所に現れる。それを公開活用することで熊本城の本質的な価値や魅力を深く理解していただき、復興への実感・共感を得ることも期待している。復旧が長期となることを考えると、生涯学習や次世代を照準とした学校教育とも積極的に連携すべきである。更に、体験型の活用を行うことで復旧への市民参画にもつながる。市民参画は震災記憶の継承にもなり、文化財価値を恒久的に継承していくためにも不可欠なことと考える。

35年計画のうち、25年間は本丸のほとんどの区域が工事エリアのままだと。このため、工事と並行して安全かつ快適に見学することができるように見学通路を仮設した。工事車両を下に通すために地上より17メートルの通路とし、バリアフリーや夜間活用のための照明、景観への配慮も十分に施した。

天守閣の公開も好評で、今では地震前の入園者数に迫っている。24年春からは宇土櫓解体工事の定期公開を始め、更に熊本城の魅力が向上したと言える。

震補強が困難な場合は、立ち入り規制などで対応せざるを得ない。

伝統工法・現代工法を細かく検討し、必要最低限の施工としている。効果的な耐震補強の手法は状況に応じて

成果の有効活用に期待

熊本城では被災箇所を復旧するだけでなく、期間中に新たな価値が加わり復興が進んでいく。例えば耐震補強やバリアフリー、展示の刷新、見学通路解説板などのハード面と調査研究の成果、市民らの理解・愛着の向上、人材育成などのソフト面がある。復旧工事に当たっては各種の調査が行われ、必要な研究を実施し、報告を残していく。建物、石垣ともに解体や発掘は必要最小限に厳しく限定されるが、この復旧事業による調査成果は熊本城の保存のためにも重要となる。既に、熊本城での石垣耐震基準や復旧手法の検討成果

などが他の城郭で活用されているように、今後も様々な成果が全国で有効活用されていくと期待している。

現在、復旧事業と並行して城内樹木の整理も進めている。樹木などの保存管理計画を策定し、計画的に危険木や支障木の伐採に着手している。熊本城の景観が整えられるだけでなく、石垣などの保存、見学者の安全のためにも必要なことと

共通運送株式会社
社長 永原 敏雅
〈札幌市白石区〉

株式会社 杉本運輸
社長 杉本 憲昭
〈北海道小樽市〉

群馬県トラック協会 前橋支部
支部長 関口 宣男
〈前橋市〉

埼玉県トラック協会 川口支部
支部長 荒川 優二
〈埼玉県川口市〉

一般社団法人 千葉県トラック協会
会長 池田 和彦
〈千葉市美浜区〉

公益社団法人 北海道トラック協会
会長 松橋 謙一
〈札幌市中央区〉

一般社団法人 茨城県トラック協会
会長 小倉 邦義
〈水戸市〉

株式会社 ボルテックスセイグン
社長 武井 宏
〈群馬県安中市〉

株式会社 井ノ瀬運送
社長 井ノ瀬広和
〈埼玉県熊谷市〉

有限会社 八千代運送
社長 福島 昇
〈千葉県八千代市〉

札幌地区トラック協会 札幌西支部
支部長 林 勇作
〈札幌市西区〉

山登運輸株式会社
社長 松橋 謙一
〈札幌市東区〉

群馬県トラック協会 高崎支部
支部長 山田 雅夫
〈群馬県高崎市〉

清水運輸グループ
社長 清水 英次
〈埼玉県志木市〉

内宮運輸機工株式会社
社長 内宮 昌利
〈東京都江戸川区〉

北海道フーズ輸送株式会社
会長 渡邊 英俊
〈札幌市西区〉

旭川小型運輸株式会社
社長 湯野 信一
〈北海道旭川市〉

群馬県トラック協会 館林支部
支部長 谷田川敏幸
〈群馬県館林市〉

大沢運送株式会社
社長 大澤 隆
〈埼玉県熊谷市〉

東亜物流株式会社
社長 森本 勝也
〈東京都江戸川区〉

一般社団法人 札幌地区トラック協会
会長 渡邊 英俊
〈札幌市東区〉

株式会社 トッキュー
社長 工藤 真也
〈北海道岩見沢市〉

株式会社 啓和運輸
社長 川島 満
〈埼玉県入間市〉

高山行政書士事務所
所長 高山 正孝
〈千葉市美浜区〉

株式会社 浅井
会長 浅井 隆
〈東京都大田区〉

山登運輸株式会社
社長 松橋 謙一
〈札幌市東区〉

一般社団法人 栃木県トラック協会
会長 石塚 安民
〈宇都宮市〉

群馬県トラック協会 高崎支部
支部長 山田 雅夫
〈群馬県高崎市〉

清水運輸グループ
社長 清水 英次
〈埼玉県志木市〉

共立輸送株式会社
社長 高畑 幸司
〈東京都江東区〉

旭川小型運輸株式会社
社長 湯野 信一
〈北海道旭川市〉

栃木県トラック協会協同組合
理事長 神山 義徳
〈宇都宮市〉

群馬県トラック協会 館林支部
支部長 谷田川敏幸
〈群馬県館林市〉

大沢運送株式会社
社長 大澤 隆
〈埼玉県熊谷市〉

株式会社 フコックス
社長 鎮目 隆雄
〈東京都江東区〉

株式会社 トッキュー
社長 工藤 真也
〈北海道岩見沢市〉

一般社団法人 群馬県トラック協会
会長 武井 宏
〈前橋市〉

株式会社 啓和運輸
社長 川島 満
〈埼玉県入間市〉

高山行政書士事務所
所長 高山 正孝
〈千葉市美浜区〉

株式会社 浅井
会長 浅井 隆
〈東京都大田区〉

全ト協〈第29回〉全国大会

(順不同)

